

西川ゴム工業株式会社SDGs宣言

2025年8月3日（日曜日）

「ひろしま海の森づくりプロジェクト」親子で学ぶ海の環境教室！

2025年8月3日（日）、「ひろしま海の森づくりプロジェクト」の一環として、「親子で学ぶ海の環境教室」が開催されました。会場は福山大学因島キャンパス。海の環境とアマモの大切さについて学びました。

当日は、潮の状況で浜辺には降りられませんでした。海を見ながらアマモ場づくりの説明を受け、海の再生について考えました。また、室内ではアマモの光合成実験を体験。福山大学内にあるマリンバイオセンター水族館では、福山大学の学生の解説を聞きながら生きものの展示を見学しました。ヒトデなどに実際に触れてみる体験もあり、子どもたちは大興奮！生まれたばかりのシロギスの卵の説明もあり、海の生物を間近に感じることができました。

最後は、海の環境についてのチーム対抗クイズ大会で盛り上がり、缶バッジの景品をゲット！親子で楽しく、深く学べる一日となりました。

実際に参加した子どもたちの感想を掲載します。

自然ゆたかな海にするためにはアマモは必要と知った。
アマモが二酸化炭素を吸収するはたらきがあることがわかった。
アマモは生物の住みかにもなることを知った。

アマモは色々な生き物のすみかなので、生きるために必要な事が分かりました。アマモはライトにあててはやく待つと光合成により葉の切サロから気胞(酸素)が出てくる事が分かりました。気胞は1分間に約13個出てくる事が分かりました。その他にもアマモの光合成の観察は色々な実験があっておもしろかったです。

アマモは、木や草と同じで二酸化炭素を吸って酸素を出している。アマモは魚たちのすみかにもなっている。水族館のうら面に入った魚の標本やたまご、幼魚、ち魚のことがよく分かった。魚は生長していくにつれて食べ物が変わっていくことが分かった。ツノオトシゴも魚の1種だと知った。ツノオトシゴはオスがたまごをうかさせることにおどろいた。

岩場には、食べれるヒジキやワカメがっていることが分かりました。また、干潟にはアマモがはえてることも分かりました。アマモは二酸化炭素をへらすことができ地球温暖化の削減になっていることがすごいなとかんじました。すごく楽しかったです。

すいぞくかんて"アマモのべんきょうでい
けんをしたりするのがたのしかった です。

水族館のうらがわを見るのがとくべつ感があて楽しめ
たです。

オニオコゼの子どもの時のひれがすごくきれいで
めずらしくてすごかったです。



アマモを増やすために ～ 福山大学 山岸教授の説明を聞く子どもたち



ヒトデに触れてみて



アマモの光合成の実験



タッチングプールで海の生き物に直接触れることができます！